

ふえおりの元気印

2004年10月刊 発行:地域づくりネットワーク福岡県協議会

改訂・創刊号

特集 報告 第21回石川大会 地域づくり団体全国研修交流会

内容

ふるさと通信……………3、4頁
地域づくり団体訪問……………7頁
ひと模様 山下征夫さん……………8頁

福岡県の「げん木」 シリーズ①

博多祇園山笠で有名な博多の総鎮守、櫛田神社の境内にデンと構えているのが、この「櫛田の銀杏」。地元では銀杏=ぎなん、と呼ぶ。樹齢1000年、樹高33m。博多一番の古木だ。古来、博多祝い歌に「さても見事な櫛田の銀杏 枝も栄ゆりや葉も繁る」と愛唱される。幾度か台風の被害で樹勢が弱ったが、都心部にあって、なお堂々と周囲のビル群を睥睨している。

特集

「地域づくりわんたたき」をテーマに 全国から地域づくりの仲間五百人

第21回地域づくり団体全国研修交流会・石川大会

21回目を迎えた「地域づくり団体全国研修交流会」は9月3～4日、石川県で開かれた。全国から地域づくりに取り組むチームの代表、関係者を始め行政担当者など約500人が参加。各地での地域づくりの実例報告が多く披露され、参加者には又とない良い勉強の機会となった。

次回は来年2月、奈良県で開かれる。参加ご希望の方は当協議会事務局まで問い合わせ下さい。

今回は石川県穴水町の「のとふとあい文化センター」を全体会場に、同県下17分科会で開かれた。

大会スローガンは「わんたたき」。このユニークな言葉は能登に残っている方言で次の意がある。大家族の三男坊は黙っていてもご飯がもらえない。そこで彼

は腕を叩いて存在を誇示した。ほほえましくもたくましい。「地域づくりはわんたたきでありたい」と大会主催者。

開会式はまず、主催者挨拶として地域づくり団体全国協議会特別顧問の伊藤善市氏が立ち「全国大会は今年で10年目を迎えた。継続は力なり、です。参加者の皆さんは本大会で地域づくりの多くのヒントを学んで下さい」と呼びかけた。

続いて地元を代表して石川県の谷本正憲知事が挨拶。「地域づくりは、潜在的

な地域の力、財産をどう見出し、磨き、発信するかという非常に大切な取組み。観光立県をめざす本県にとって重要施策のひとつである」と語り、昨年7月に開業した能登空港を起爆剤に行政と地域が支えあって県勢の振興を図るプランを熱心に語った。

このあと来賓挨拶。総務省の碑田昭人地域振興課長は「地域の再生の担い手づくりは、人材づくりに尽きる。成功のノウハウの伝授に努めたい」と語った。さらに(財)地域活性化センターの牧之内隆久常務理事は「地方の時代が叫ばれる中、地域づくり団体の活動はますます重要度を増している。支援事業に尽力する」と言明した。

開会式のあと、長時間の基調トーク(本記事の後半に詳報)。それを終えると参加者は県下17分科会の会場に向った。

4者による基調トーク

「持続可能な地域づくり」とは――

司会進行を務めたのはNPOスローライフ・ジャパン理事長の川島氏。3人のパネラーは石川県、高知県、岩手県でそ

れぞれ独自の観点から地域づくりに取り組んでいる実践家。それだけに会場の興味と関心を集めていた。

基調トークのパネラーの皆さん

(特)NPOスローライフ・ジャパン理事長

川島 正英氏

(特)四万十ドラマ 職員

畦地 履正氏

(特)さわやかいいね金沢 理事長

中野 啓子氏

遠野市総合産業振興センター所長

菊池 新一氏



基調トークは厳かな雰囲気の中で行われ、パネラーの皆さんによる各地での熱っぽい事例発表が続き、会場の参加者を引きつけた。



第111分科会(田鶴浜町)のテーマ「野鳥と温泉」。古い文化財も大切に、人々がゆったりと生活していた。普段からの地域づくりの成果といえる。

川島 今回のテーマである「持続可能

な」とは何かといえば、継続する志、つまり市民社会のあるべき姿を語った洗練された意識だと私は思う。その具体例を3人のパネラーの方々に、自己紹介を兼ねて語って頂きましょう。

菊池 私は、柳田国男(民俗学者)の著書『遠野物語』で知られる岩手県の遠野市から来た。もともと市職員で、昨年つくられた遠野市総合産業振興センターの所長に就任した。

これまで、いろいろ取組んで来た。ドブロク特区では全国で認可第一号を頂いた。グリーンツーリズムでは農家民泊、農業体験はもちろん、乗馬、ワーキングホリデー、スローフードなどあらゆる資源活用を試みた。平成10年にオープンした道の駅には今年年間100万人が来て、出店者の1人は5坪の店で年間50000

万円を売上げる。

市は人口2万7000人。私は行政と市民の関わり方が大事だと思う。官の側が本場に市民と一緒にやっていくのか、そこが決定的に重要な所だ。

畦地 今や全国ブランドの四万十川。

私の会社は第三セクター「株四万十ドラマ」。地域おこしに①産業の創造②ネットワークづくり——を考えた。川に負担をかけず、地産商品とリサイクルの観点からアイデア商品を開発した。まず「四万十川のヒノキ風呂」。これはヒノキの端材を利用して薄い板を袋に入れたもの。一種の遊び心だ。原価はゼロ。一袋200円で年間50万枚(売上げ1億円)のヒット商品になった。次に、80gの袋入りの香り米。普通の米に混ぜて炊く。一袋200円だが、これが年間2万袋は売れる。知恵とアイデアの勝負だ。

中野 金沢市で①お年寄りのホームヘルプ②託児のNPO法人としてがんばっている。この3年間、利用者の方から1時間700円頂いて、活動した人には600円、あとの100円を会の運営費に当てて来た。だが正直、会の運営は厳しい。自立を図って、この2月から介護保険を導入した。

私たちの願いは本当に地域に根ざしたサービスの提供と地元の信頼獲得だ。

川島 すべて順調ですか。反省点は。

中野 地元の信頼獲得、実はこれがなかなか難しい。地道に努力している。

菊池 農家民泊とかレストランとかで

大会に参加して学んだこと

能登での出会い。最後まで自分らしく生きるために——

NPO法人福岡町ゆーあいの会

小樹 眞澄

第14分科会「志雄グループホーム」への参加が私の今回の大会参加の目的でした。年老いても障害を持ったとしても、住み慣れた町で最後まで自分らしく暮らし続けたい、これが私達の活動の原点です。日々の暮らしの中でよくと助けてほしいとき、「困った時はお互い様」の活動を市民互助型で1994年から行っています。

分科会ゲストの堀井様ご夫妻との出会いは大きなものでした。介護のいきつくところは、生活

地域内外の人が「共感」できる場づくりを

志摩町総務課

持田 浩司

基調トークで語った(株)四万十ドラマの畦地氏は話が大変興味深く、自らの町においての商品開発について考えさせられました。私達の町では第一次産業が主力で、農・海産物などの商品がありますが、売上げを伸ばすことはなかなか難しいことです。私が参加したのは第12分科会「薬師の里」でテーマは「体験交流プログラムを創ろう」。地域外の人が「あの町行ってみたいいな、住んでみたいいな。素敵だな」という思いを薬師の里の

は、行政の規制がきつい。困ったことだ。

畦地 四万十川ブランドに頼らない生

業も考えないと。川も家庭排水とか山の荒廃で少し汚れてきた。

川島 今後の努力目標は。

畦地 まず実績を示す。これしかない。

知り合いを一本釣りにして賛同者のネットワークを図っていく。口コミが有力だ。

菊池 私は永い間、行政の立場から係

って来たが、それを踏まえて①行政はお金を出す口は出さない②市職員は地域

づくりのプロでなければならぬから決して「逃げない」こと③ボランティアの活用——と以上の三点が大事だと思う。

中野 とにかく楽しくやりたい。人が人を呼び込んでくれる。行政の協力にも

助けてもらっている。幅広い交流の大切さを感じている。

川島 やはり「協働」が大切な要素だということですね。地域づくりを考える上で大事な課題です。本日は長時間、貴重なご意見をありがとうございました。

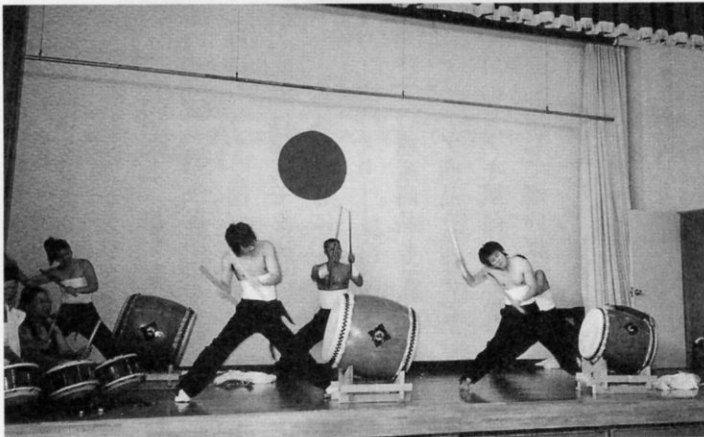
次回は来年2月 奈良県で開催

今回の「地域づくり団体全国研修交流会」は来年2月17日(木)・18日(金)、奈良県で開催される。全体テーマは「歴史に遊び、未来を語る」。同県大淀町の大淀町文化会館に県下11分科会が準備されている。

栃木と福岡が熱烈交流

—栃木県から太鼓隊が訪問—

立花町で太鼓競演「まちの駅」をきっかけに



栃木から訪れた太鼓グループ「夢現」の力演に会場から大きな拍手

ふるさと通信

わがまちニュース

新しい地域づくりの手法として「まちの駅」構想（別註参照）が全国的に展開しているが、8月28日、福岡県立花町でユニークな取り組みがあった。栃木県大平町の太鼓グループが訪れ、地元・八女郡の太鼓グループとの競演会が催され、集まった町民たちは夏の1日を楽しく過した。夜は交流会。史跡「白城の里旧大

内邸」で夜遅くまで語り合った。
立花町（福岡県）と大平町（栃木県）。約900kmも離れた双方の町民は「まちの駅」づくりの賛同者として縁を結んだ。

※ ※

8月28日午後1時半、立花町の白木小学校の体育館で「どんどんながるまちの駅」が開催された。主催はNPO法人「白城の里旧大内邸保存会」（古賀功一



子供も大人も大満足。体育館は満杯だった。

理事長）▽「まちの駅ネットワークふくおか」（手嶋隆行代表世話人）▽「まちの駅ネットワークとちぎ」（吉田恵子代表世話人）。

立花町はミカン、キウイの生産で知られるが、大平町もブドウ、イチゴの生産が盛ん。農業中心の共通点に加え、「まちの駅」づくりも熱心なことで今回の交流が実現した。大平町からは「まちの駅太鼓・夢現」のメンバー約20人が来訪。これに対し、地元からは①夢たちばな浪漫竹（ロマンチック）楽団（立花町、竹製のマリンバ演奏）②御良八幡太鼓育成会（星野村）③健ちゃんバンド（立花町）④八女神楽太鼓（八女市）が参加。

随想

30年前、高度経済成長華々しい時期、ボランティア的なものではなく、サークル型のグループで地域や公園の清掃にいった経験がある。最近ボランティアの活動がメディアを喜ばせ、あれもこれも活動だが、私は自分にあつたボランティア参加が大事だと思ふ。それを活かすためにはプレゼンスがなければ、その魅力も理解できない▼最近、コミニティ・ビジネスによる産・

学・官に市民が入り、新たな取り組みが地域発展にはまた、小学校の授業が入ったことは大変の実活動は、黒木町の四季と、二丈町の福保（山）の会（大もみじ花会）グリーン1年を通してることである。関係し田、つ▼また、それ顔がある。黒一フオーゲル活ミニティ・ビジネスである。実ライフスタイルものと、私自いる▼私の趣林が相手だ。そのためにはこのマチムラともその想いを満たしてくる。水源涵養林育成の活動歴は20年目になる。周りの人には大変迷惑であるが、山言葉や伐採についていろいろ指導して頂き、黒木町では待望の大きな木を伐採することができた。昨年はチェンソーの労働安全衛生特別教育修了証も取得し、指導できる公的資格も得た▼人を知り、遊べて、地域の一人になることは自然体で地域づくりを実践することでもある。

私なりのボランティア

山本 史朗（明るい町づくり協議会）福岡市

学・官に市民が入り、新たな取り組みが地域発展にはまた、小学校の授業が入ったことは大変の実活動は、黒木町の四季と、二丈町の福保（山）の会（大もみじ花会）グリーン1年を通してることである。関係し田、つ▼また、それ顔がある。黒一フオーゲル活ミニティ・ビジネスである。実ライフスタイルものと、私自いる▼私の趣林が相手だ。そのためにはこのマチムラともその想いを満たしてくる。水源涵養林育成の活動歴は20年目になる。周りの人には大変迷惑であるが、山言葉や伐採についていろいろ指導して頂き、黒木町では待望の大きな木を伐採することができた。昨年はチェンソーの労働安全衛生特別教育修了証も取得し、指導できる公的資格も得た▼人を知り、遊べて、地域の一人になることは自然体で地域づくりを実践することでもある。

道の駅ミチノエキ
海外にも広まる

日本で始まった「道の駅」が海外にも広がりは始めている。いわく「ミチノエキ」で、タイでは既に開設されたほか、世界銀行では7月、設置する際の手引書を各国政府向けに作成。アジア開発銀行などとともに中国やモンゴル、インド、ケニアなどで本格的な支援を始めたという。ケニアでは海岸部から首都ナイロビを経てビクトリア湖に至る道路に、世銀が11の駅を建設支援する計画。

実は本紙の右の記事「まちの駅」も「道の駅」がヒントだった。がんばれ、駅、駅！

恒例の「赤米・夜神楽」にぎわう

二丈町 大人も子供も二千人来場

9月11日、福岡県二丈町吉井の「まむし温泉駐車場」で毎年恒例の「赤米・夜神楽」が開催され、多くの観客でにぎわ

った。主催・二丈町観光協会、後援・二丈町商工会並びに「福の会」。この催し

は今年で5回目。子供から大人まで楽しめる祭りとして毎年、観客が増え、今年は昨年を大きく上回る約2000人の来場者でにぎわった。

里山保全をしながら、都市部や海外の環境ボランティアとの交流を図る第8回「国際里山・田園保全ワーキングホリデーin

筒井秀来町長も姿を見せ、参加者たちと夏の一夜を楽しんでいた。



漆黒の夜空をバックに、かがり火をたいて夜神楽。祭りムードは最高潮に



本番の夜神楽に先立ち、中学生による「子ども神楽」が演じられ観客からヤンヤの拍手喝采。

後4時から「赤米田んぼの鑑賞」始まり、同5時半から「地元のエイメント」で①一貴山子供太鼓工による子供神楽③最高85才の婦人たちによる大黒舞などのあと午後7時から本番の夜神楽。かがり火がたかれる中、まっ暗な夜空のもと、地元・福井岩戸神楽が6幕、約1時間にわたって上演され、観客はその幽玄な世界に酔った。

会場は多くのテントが張られ、地元婦人部による「赤米焼き」など出店が並び、大にぎわい。

を流し、内容の濃い実践と交流を重ねた。

実行委員会の中核は黒木町の「山村塾」（椿原寿之代表）。94年に発足した同塾は都市部の会員を募り、年間を通して田植え、山林の下草刈り、収穫祭などを行っている。例年、英国やアジアの環境NGOも招いており、今年は9月のイギリスを始め、韓国タイの予定で計画中。同塾では会員を募集中。 ☎0942(53) 5511

黒木でワーキングホリデー
海外NGOと共に10日間

郷土の埋もれた偉人たち シリーズ①

江戸初期の農学者。安芸(広島)の生業に従事。開墾、植林、農業指導に当たった。また、全国の農業の先進地に老農を訪問、その見聞記を大著「農業全書」にまとめた。元禄10年(1697)世に出した。辞職し、以後、女原村(現在の福岡市西区周船寺女原)に住み、以後40年余、農

宮崎 安貞

みやざきやすさだ 1623-97

1977年間のベストセラー『農業全書』

農業全書は、全11巻。農業全般にわたる栽培技術の指導書として、その内容は米麦はもちろん、綿、藍、タバコ、茶、桑、家畜、養魚にも及ぶ。また、中国の農書の知識も紹介しているが、これには同郷の学者貝原益軒の寄与も大きい。

農業全書は今で言えば超ベストセラー。明治27年に至るまで実に197年間、出版され、全国の各藩が参考にした。

わがまち自慢

市町村長インタビュー①



市章
小郡の「小」と渡り鳥
の轡をデザイン化

おごりし 小郡市の 地域づくり



毎年の「緑の日」(4月29日)には市内を流れる宝満川で市民参加の一切掃除。約3000人が参加する。

小郡市は福岡市と電車で30分で結び、久留米市とは隣接し、交通の便はもちろん、緑豊かな田園風景と水辺の自然が残る居住性の優れたまちだ。

「民」出身の田籠勝彦市長(3期目)は「市民の発想・視点でまちづくりを行う」ことを強調する。64歳。

一昨年6月から昨年15年9月まで、公募による市民参加の「まちづくり会議」をつくり、市の担当課も加わってワークショップ形式の討論会を組織。計13回

市のホームページを用意 『市長へのメッセージ』で必ず回答

開かれたが、この時の討議内容が現行の「都市計画マスタープラン」と「緑の基本計画」の策定における基礎資料となった。

古代以来の歴史的遺物の多いことで知られる同市。従来からの「歴史を活かしたまちづくり」の看板の他にもう一つ、市民参加型のまちづくりに力を注いでいる。

女性登用にも 熱心

市民参加を求める別の取組みに従来から行われて来た「ごみ減量化」市民リサイクル活動がある。各行政区が単位の「環境衛生組合」では、市民一体でごみの分別収集に努める。ごみ6種類、リサイクル用(古紙等)11種類の計17種類の分別収集が実施されている。これは県下でもトップランクの成績だ。

「田籠さんが市長になってから女性登用が増えた」と、ある



田籠勝彦市長
気さくで庶民的なお人柄。最近、県境を越えて鳥栖市との「道州」勉強会で話題を呼ぶ。

市民ボランティア活動家が評価する。

同市には県下でも数少ない女性教育長(秋山幸子氏)がいるし、女性課長は2人、係長となると多い。これは秘かに田籠さんが自負する点だが、広言はしない。

今年7月1日から市内6ルート巡回する「コミュニティバス」を運用開始した。これは保健福祉センター「あすてらす」を中心に乗合いバスを走らせるもので、料金は大人1回乗車で100円と格安。交通弱者への対策として実施した。お年寄りに好評だ。

■沿革 昭和30年3月、小郡町、味坂村、三国村、御原村、立石村が合併。

昭和47年4月、市制施行。
■人口 5万7469人(男2万7503人、女2万9966人)。高齢化率18・3%。10月1日現在。

■主要産業・特産品 農業(米、麦、いちご)、花き栽培(洋ラン中心)は有名。

情報交差点

◇美しいまちづくり賞、来年2月発表◇

県住宅課は、街の景観づくりに貢献しているハード、ソフト面での表彰を図り一般公募している(今年で17回目)が、今年度分は既に締切り、選考結果を来年2月に発表する。ハード面の大賞や優秀賞は住宅、ホテル、事務所など。ソフト面では環境美化などの「まちづくり貢献賞」が用意されている。

◇ボランティア活動の方法を伝授◇

ボランティア活動に参加したいが、どうしたら良いのかと戸惑う人に8月21日から4回、福岡市NPOボランティア交流センターで県下14団体が活動内容を発表して、ボランティアへの参加を勧めた。体験談、質疑、イベントと、9月11日まで行われ、好評を博した。

◇来たれ!『炭鉱節』の大祭典◇

炭鉱節の発祥の地、田川市で10月30、31日、一大祭典が開かれる。昨年まで「田川さのよい祭り」として開かれ、高知の「よさこい踊り」に負けるな、追い越せと炭鉱節をアレンジした創作踊りで人気を集めて来たが、今年は福岡県内で開かれる国民文化祭「とびうめ国文祭」の関連イベントとして企画。場所は石炭記念館。30日は午後1時から「正調」部門。31日は午後1時から「創作」部門。若者などが歌や踊りをアレンジした炭鉱節で

誰にでも一芸はある。例えばカラオケ、踊り、尺八、手品……。そのような一芸でボランティア活動をしようというのが「青空会」の活動だ。きわめて明快そのものだ。芸の上手、下手ではない。要は「お年寄りの皆さんと、楽しいひとときを過せれば」という、心のボランティアなのだ。

会は、とにかく明るく、にぎやかで元気な人たちの集りだ。会員は現在、約100人。シロウト芸とは言え「下手を通してはいけない。真剣に誠心誠意で」と会長の高島英子さん(70)。会員は、

普段からそれぞれの教室に通い、芸を磨く。中にはプロもいる。カラオケ教室の

主宰者、元プロの旅まり役者、現役の演歌歌手もいる。職業も年齢もさまざま。主婦、施設職員、看護師、司会業、元自衛官、前市会議員……と実に多彩だ。

徹底したボランティア精神

会員の共通する思いは一つ。老人ホーム、身障者施設などを訪れ、お年寄りとの触れあいを図ることだ。最近は人気が出て、敬老会や村祭りなどからのお呼びが増え、遠く県外にまで出かける羽目に

シロウトの一芸でボランティア

小郡市 福祉演芸グループ「青空会」

ら、衣装や飾りなど、それなりの装いが必要だ。例えば「旅芸者」の場合、中古のカツラとなると10万円はする。それを自前で……。交通費は自己負担、出演先からの謝礼は一切、受けとらない。会のボランティア精神は徹底している。

こんな活動が、会の結成から今年で8年目にして既に1000回を超えた。

お年寄りの笑顔が喜び

「どうしてそのように奉仕の心が厚い



それぞれに衣装をこらし、一芸を披露(8月22日、甘木市の健康福祉館で)

なった。月平均7〜8回の出演というから、これは相当なハードスケジュールだ。実際の運営となると大変。シロウト芸とは言っても他人さまに披露するものだから

のですか?」。会長の高島さんはニコニコ笑って「それは多分、会員の皆さんもやって楽しいからでしょう」。気難しいお年寄りが笑顔を浮かべた時、それは一番の喜びだという。元自衛官で「靖国の母」の踊りを得意とする坂本昇朗さん(70)も深くうなずいた。

「私たちは、ボランティアをしてやっているのではなく、させて頂いているのです。私たちが喜びを頂いているのです」と高島さん。従って、会の活動は「慰問」は禁句だし、おじいちゃん、おばあちゃんとの呼び掛けも禁句。○○さんと名前を呼ぶ。

2人の子を育て、

専業主婦から脱した高島さん。夫に支えられ、今、社会での活動に大きく息をはずませている。



会長自ら得意の演技「じよんがら女節」を熱唱

団体概要

■代表
高島 英子

■会員
約100人

■連絡先
小郡市小郡689-57
☎0942(72)9506

■会費
月額500円

個性を競う。問合わせは国文祭田川市実行委員会 ☎0947(44)6470まで。見学無料。

◇第19回国民文化祭・ふくおか2004「とびうめ国文祭」。いよいよ開催◇

「飛梅に、乗って広げ、文化新時代」をテーマに第19回国民文化祭が10月30日から11月14日にわたり福岡県下で全市町村が参加して広範に、多彩に行われる。

福岡県下各地の特色を活かし過去最高の115のいろいろな事業が繰り広げられる。参加する人、鑑賞する人、いずれもこの国民文化祭を通じて、ふるさとの文化芸術を再認識できる良い機会になる。さらに韓国、中国など海外からも多くの参加、交流がある。

開催式・オープニングフェスティバルは10月30日、福岡市のマリンメッセ福岡で。

閉会式・グラนด์フィナーレは11月14日、北九州の北九州芸術劇場で。

事業は多彩にわたるので各市町村、又は福岡県実行委員会事務局(福岡県庁内 ☎092・473・8372)へ問合わせること。いくつかあげると11月13日九州国立博物館・国際シンポジウム▽10月31日オーケストラの祭典▽10月30日ふくおか演劇祭▽11月13日能楽の祭典▽11月3日全国太鼓の祭典▽11月7日日本舞踊祭▽文芸祭(短歌、俳句、川柳、連歌等)。



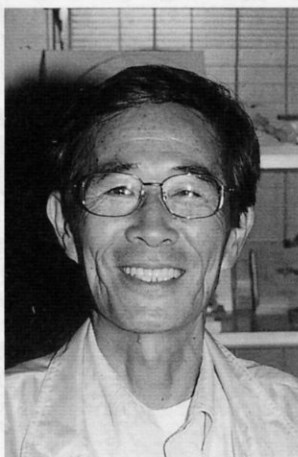
シンボルマーク

地域づくり団体訪問 シリーズ⑰

こんにちは

NPO法人
つやざき千軒いきいき夢の会

山下 征夫さん (60)



ひと模様

最近、津屋崎からの「地域づくり」発信が、やたらに多い。以前から、夏のビーチサッカーは有名だし、町役場に「うみがめ課」があるのは全国的にもユニークなことで知られているが、今度は10月に第1回「うみがめヨットレース」(台風の影響で10月17日に延期して実施)が、さらには11月12・14日に「日本うみがめ会議」が開かれるという全国大の企画。調べてみたら、この人、山下征夫さんが

年金がもらえるようになったので
仕事「2」、ボランティア「8」かなあ

取組みの中心にいた。民の立場から官(町)とも連携して、いろいろな「まちおこし」事業をグングン押し進める。そのパワーの源は?

北九州市の生まれ。東京、福岡と企画会社に勤め、独立。津屋崎

に28年住む。一男一女も独立

し、仕事柄、行政事情にも通じている。そこで

地元の人から「何か手伝って」と

声が掛った。もともと面倒見の

良い性格なので、始まると止まら

ない。「あれよ、春、恒例の「よつちゃん祭り」。津屋崎に残る古い街並を散策して楽し



春、恒例の「よつちゃん祭り」。津屋崎に残る古い街並を散策して楽しむ来訪者も多い。

あれよ」という間に現在のNPO法人「つやざき千軒いきいき夢の会」の事務局長(理事)に推された。会員60人。

年間を通してやることは多い。恒例の春の「よつちゃん祭り」。町のランドマークとなった築百年の「藍の家」の保管・運営。津屋崎海岸の海がめ産卵対策...

幸い「会」には人材が多い。元教師の秦信男副理事長を「先生」と仰ぐ。

多忙の暇を抜って旅に出る。ニューヨークでは必ず立寄るジャズライブの店がある。山下さんの地域づくりの夢は大きい。「あれこれ構想はあるのですよ」。

根っからのロマンチストとみた。

連絡先
〒811-3304 福岡県津屋崎町津屋崎936
☎0940(52) 4741

お知らせ

地域づくりネットワーク福岡県協議会から

◆ご覧のように今回から紙面を一新しました。従来の4頁建てを8頁建てにして内容充実に努めました。ご愛読下さい。

◆協議会では、地域づくり活動や活動PRの専門家である「地域づくりコーディネーター」を派遣しています。皆さんの地域づくりの一助になればと思っています。是非ともご活用ください。ご連絡を。

◆また、協議会ではホームページを開設し、会員の情報、イベント情報を掲載しています。会員の皆さんでホームページに掲載して欲しい、ということがございましたらご連絡ください。

◆本年度から事務局担当が変わりました。少しでも皆さんのお役に立てるようにがんばりますので、よろしく願います。私は担当、川上と申します。

◆皆様からのご提案を歓迎します。

地域づくりコーディネーターの目

その⑮

岡本顕實

先日、呼子町教育委員会(佐賀県)の招きで講演会に行った。聞いて下さる方には今年、同町の社会教育委員に任命された9名と町職員の皆さん方。いわば新研修会の趣向である。演題は「地域づくりとは」。私は意図的に「まず、大きなテーマから話します」と言い「現在、世界人口の4分の1、つまり約15億人の人間が1日1ドル以下の極貧困生活で生命を継いでいる」と国連統計を紹介した。続いて最近、世界各地で続発する「テロ紛争」に触れ、イデオロギー以前に世界の富の偏在に原因があると述べた。

ケゲンな顔の社会教育委員(僧侶、学校長、主婦等)の皆さん「地域づくりと何の関係が?」とありあり。私は言った。「このような話が家庭で、学校で、職場で、かしまって出来ませんか?」。地域づくりは「次世代づくり」。祭り、清掃、植樹...老いも若きも共通目標で汗を流しつつ、共に語らい、年長者が子供たちに自然に語る。地域づくり活動では、そのような「場」がスムーズに出来る。食料、環境、最近の原油問題と世界は一つだ。ある町会議員が「大変、刺激を受けました」と言ってくれた。

発行

地域づくりネットワーク福岡県協議会

〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7 福岡県庁 地域政策課内

TEL.092-643-3178 FAX.092-643-3164

http://www.chiikinet-fuku.org